「和歌山市地域子育て支援拠点事業運営業務」事業計画書④

【子育て親子の交流の場の提供と交流の促進（通年）】について

拠点を訪れる親子が居心地よく過ごせる空間になるよう、以下の点についてどのように工夫するのか記載してください。

・親子同士の交流が促進されるための工夫

○まずは親たち、子どもたちが、常に周りから温かく迎えられ見守られていると感じられるような拠点作りに努めます。

○スタッフは常に全体に気を配ります。スタッフと個々の親子だけの関係にならないよう、月齢が近い親子を紹介するなどして話のきっかけ作りを手助けします。

○離乳食や睡眠など子育て中の困りごとの話が出たときにその場にいる親たちとも話題を共有し、親同士が会話できるよう誘導。

○利用者の主体性を尊重した居場所作り

・「ぐるんぱママの会（ほっとちゃん）」を支援

当支援拠点を、親子にとって居心地のいい場所にするための「ママの会」です。
メンバーが主体となって、親たちの関心のあるテーマで、誰でも参加自由のおしゃべり会を開催するなどしています。

○「ぐるんぱパパの会」を支援

パパ同士のつながりを作るために立ち上がった会。自分たちのやりたいことをやる中で、本音で話ができる関係を作っていけるよう、サポートしていきます。

○他の親子との関わりに気を使ってしまいがちな親たちに、必要に応じて遊び方、子ども同士の関わり方の大事さ、などを丁寧に伝えます。異年齢集団のメリット等も伝えます。

・未就園児を連れた保護者が居心地よく過ごせるような空間作り

○色、音、光などの刺激の強いものはさけて、大人も子どももくつろげる落ち着いた空間作りを心がけます。

○安全で清潔な空間づくりをめざします。

○乳児連れでも安心して利用できるように、活発な年齢の子どもたちと棲み分けできるように工夫します。

○育児のヒントになるような本、またはジェンダーの本や性の絵本など考えるきっかけになる本、大人向けの絵本を本棚の上部に置き、気軽に手に取って読めるようにします。

○ソファーを２台設置。十分な睡眠が取れず日々の生活で疲れている時には、少しゆっくり休んでもらえるよう配慮します。

○子育てを親だけの責任にしない、地域みんなで育てるものであるという空気を、スタッフや親たちみんなで作り上げていけるよう努めます。

○来たときも、帰るときも必ず声をかけるようにします。常に親であることに敬意を払い、日々のがんばりを心から労いたいと思います。

・交流の場に来た子供が楽しく過ごせる空間作り

○おもちゃや絵本の質、家具の配置などにはこだわりを持って環境を作ります。

・入り口近くには、子どもが最初に目を引くようなおもちゃ（シロフォン付き玉の塔、トレインカースロープなど）を置き、初めて来た子どもでも緊張しないで遊びにはいれるように工夫します。

・広すぎる空間は子どもが不安になるため、遊びこめるような家具の配置を工夫しますままごとコーナーや、車・電車遊びのコーナー、積み木コーナーなどをつくり、机や棚の配置など工夫した空間作りを行います。遊ぶことで成長する子どもの世界を保障します。

○子どもの遊びが広がり深まるような絵本やおもちゃを設置します

・良質な木のおもちゃ、口に入れても心配ない安全なおもちゃを用意します。

・昔から読み継がれているロングセラーの絵本を中心に、良質な本を選定。子どもが自分で選べるよう表紙の見やすい本棚を配置し、絵本コーナーを作ります。

○子ども同士が取り合いなどの相互のやり取りを充分経験し、人との距離の取り方や関係の作り方を学べる場を保障します。周りの大人たちが見守ることができるようスタッフは言葉掛けなどに配慮します。

○視覚刺激や音に敏感な子、発達課題のある子など配慮が必要と思われる子どもにはどうしたら安心して過ごすことができるか親とスタッフと一緒になって考えます。

○安全には最大限配慮します。角のない机、棚、安全で座りやすい椅子などを配置し、スタッフは常に、親子から目を離さないようにします。

【子育て等に関する相談、援助の実施（通年）】について

子育てだけに限らず様々な悩みを抱える保護者に対して誠意ある対応ができるよう、以下の点についてどのように工夫するのか記載してください。

・安心して相談できるような環境づくり

○すべての親子にスタッフから声をかけます。
気さくな雑談をしながら、安心して相談できるような雰囲気をつくり出すようにします。
会話のペースも相手の様子に合わせ、表情の変化や仕草、声の大きさ、早さなど、よく見ながら話をします。

○発達に不安を持つ親の相談には、必要なときは児童発達支援の指導員（親と子のひろばポコ職員）にも加わってもらい相談を行います。また、先輩ママ（発達課題を持つ子の保護者）との相談・交流の場を提供します。

○拠点施設開設終了後に個別相談の時間を設けます。（週１回）
それ以外にも必要に応じて、閉所後の相談を柔軟に受け入れます。

○開設時間内の相談は、施設の中の相談室を活用しプライバシーを守れるよう配慮、子どもを遊ばせながら相談できるよう、スタッフが対応します。

○メールや電話での相談に応じます。
人の多いところが苦手な人や、拠点施設などに出てこられない事情のある人などの相談に応じることもできます。

・相談対応時の心構えや相談を受けるための姿勢

○どんな内容であっても肯定的関心を持って傾聴。話を途中で遮らないようにします。

○言葉使い、態度、服装などで判断したり、先入観を持たない、どんな姿であっても「一人の人」として尊重、丁寧に対応します。

○スタッフ側が指導したり教えるというスタンスで取り組まない。常に一緒に考え、親自身の決定を尊重。間違ったり、行き詰まったりすることがあっても責めないで、何度でも一緒に考えるようにします。

○雑談や小さなことと思われるようなことでも背景に大きな問題が隠れていたり、個人の問題のようでも社会的な問題が影響している場合もあります。常に広い視野を持って、話を聞きます。

○援助の状況や親子の様子のなどについて、毎日の業務日誌や記録作りを丁寧にします。この記録をもとに、スタッフ間でじっくり話し合い共有し、担当者が不在のときでも相談に対応できる体制を作ります

○支援拠点での相談は、大きな問題に発展する前の大事なセーフティネットであることを自覚して取り組みます。

○拠点施設（ぐるんぱ）の活動で知り得た個人情報については、事業の円滑な実施以外の目的で使用しないことを厳守します。

・必要とされる援助等に円滑に結びつけるための体制整備

○児童相談所やこども総合支援センター、保健センターからは支援のための講習にアドバイザーとしてきてもらったり、連絡・会議などで、普段から組織的にも人的にもつながりを持ち支援につなげる協力体制を整備します。

○和歌山市ファミリー・サポート・センターは、当NPO法人が委託を受けているので、常日頃からアドバイザーと連絡を取り合い、より効果的な援助ができる体制となっています。

○必要に応じて相談者の情報を本人の合意のもとに他支援機関とも共有し、相談がスムーズに進むようにします。

【地域の子育て関連情報の収集・提供（通年）】について

保護者にとって有用な情報や保護者が求めている情報を、できる限り迅速かつスムーズに提供できるよう、以下の点についてどのように工夫するのか記載してください。

・保護者のニーズ把握も含めた情報収集方法

○支援拠点の普段の会話の中で出てきたニーズや情報は記録に残します。場合によってはより詳しい内容を保護者に聞いたり、調べてもらったりして、見える形で情報提供できるようにします。

○利用者が作る「ママの会」が主体となって、親が知りたい情報や子連れでいけるお出かけ先情報などのアンケートを実施したり、情報紙作りを行います。

○スタッフは子育てや子育て支援に関して最新の情報を得られるよう関心を払い、子育てにとって有用であると思われる情報は積極的にスタッフ間や利用者の間でも話題にして話し合います。

○親たちの自主的なグループ活動やSNSでの情報発信等、支援します。

・保護者のニーズ・利便性に添った情報提供方法

○拠点施設の情報は「カレンダー」に掲載し配布。ぐるんぱのインスタグラム、当NPO法人のホームページにも掲載。日々の情報はSNSを積極的に活用。カレンダーの裏面は、利用者の思いを綴った「tweet」コーナーを設け、親たちの子育てに関する気持ちを発信する場とします。
カレンダー、「tweet」は、保健センター等に配布。

○情報コーナーを作り、他団体企画や講習会の案内を配布、掲示します。

←情報コーナー　自由に手に取れます

「ほっとちゃん」
（ママの会）
展示スペース→

○利用者「ママの会」（ほっとちゃん）の掲示スペースを施設内に設置。利用者目線での必要な情報を作成し、発信。

○現役ママパパによる情報紙の発行（「ぐるんぱメール」年１回）

テーマ設定から取材、編集、配布までを利用者である親が作る親のための情報紙を作成。

親子の集まるカフェや小児科等に置いてもらい、拠点施設に来ていない人の目にも届くよう工夫します。HP にも掲載し、インターネットを通じて情報を広く提供します。

○「和歌山市つれもて子育てナビ」の活用

【子育て及び子育て支援に関する講習等の実施（月１回以上）】について

未就園児を連れて参加する講座としてふさわしく、かつ子育てのヒントになるような講座が実施できるよう、以下の点についてどのように工夫するのか記載してください。

・参加のための工夫（内容、時間設定、参加方法等）

○予約の形を取らない

・参加しやすいよう、開始を午前中の遅めの時間に設定

・途中の参加や退出も可能とする

・子どもが「みんなと同じことができない」と、親が不安にならなくてすむような内容にする

など、０～３歳の子どものいる家庭（子どもの機嫌などで、親の予定が大きく振り回される時期）でも気負わずに参加できる企画を取り入れます。

○「プレママプレパパ」や「アウェイ育児」「ワンオペ育児」

などつらい思いをしている人対象に、ターゲットを絞った講座を行います。

・講座内容の設定に関する考え方

○受講している親子同志がゆるやかにつながり合うことのできる時間にします

子どものための講座、親のための講座と区別するのではなく、親子でまた他の親や子どもたちみんなで楽しめる機会にします。

○日々の子育てが楽しくなるような子育てのヒントを学んだり、子どもの成長発達を前向きにとらえられるような講座を実施します。

○拠点施設利用者の親が、趣味や得意分野を活かして講師として活躍する場（手作りの会、楽器の演奏会など）の提供。保護者が受け身ではなく、発信側になる機会の提供。（エンパワメント）

○わらべうたや手遊びの会

耳にも体にも心にも心地よいわらべうや手遊びに出会える機会にします。

子どもだけでなく、親と子が一緒に楽しむことの大切さを伝え、子どもと過ごす時間が楽しくなるようなものにします。

○絵本や紙芝居の読み語り

良質な絵本との出会いは、心豊かな子どもの成長発達を促し、親子のコミュニケーションの大事なツールともなります。子どもにとってだけでなく、日々頑張っている親の心にも響くような絵本を紹介します。

○外あそび、体育館あそび、水あそび
第八緑地公園や和歌山市民体育館などを利用。水あそびはぐるんば施設前で行います。
時間も３時間とたっぷり設定。広い場所で思いきり五感を使って遊びます。自然の中や広い場所だからこそのあそびの広がりが、心と体の豊かな発達を促します。
親も子も心から解放される時間になるよう働きかけます。

○生の舞台鑑賞（年１回）
きのくに子どもNPOの活動の中で培ってきた経験を元に、上質の作品を選びます。
乳幼児期に生の舞台鑑賞を体験することは脳科学の視点からも、発達にとってとても大切であることがわかってきています。小さい子どもを抱えていると、舞台鑑賞などは気後れしてしまいますが、支援拠点が主催することで出かけやすく、楽しめるものが提供できると考えます。

○「アウェイ育児」「ワンオペ育児」
自分が生まれ育った地域以外で子育てをしている家庭は地域に知り合いもなく、ワオペ育児にもなりやすい傾向にあります。そういった親子同士が安心してつながり合い、支え合う仲間作りを支援します。

○ぐるんぱパパの会
パパ同士のつながりを作ることを目的にした会です。コーヒー講座や椅子作りなど、自分たちのやりたいことをやる中で、本音で話ができる関係を作っていけるよう、サポートしていきます。

【その他の子育て支援活動の実施】について

地域の実情、利用者のニーズ等に応じて、提案する拠点施設を生かした活動、拠点施設内にとどまらない近隣エリアにおける子育て支援活動等、どのような取組を行うのか記載してください。

・取組内容について

（例：●設置場所を生かした活動、●公民館、公園等に出向いた親子交流、●子育てサークルとの協働や連携、●高齢者、学生、地域団体との連携等）

子育て中の親たちや、プレママプレパパが

・子育てを支え合う仲間作りのきっかけになる場
・学びとなる場
・エンパワーメントされて子どもや家族との関係、自身の人生において主体的になれる場を意識して活動を進めていきます。

① 利用者が主体となった活動を支え、親のエンパワメントを支援します。

・「ぐるんぱメール」作成
　テーマ設定、アポ取り、取材、原稿作成など全て親たちで行う情報紙
・「ぐるんぱママの会」（ほっとちゃん）の運営。
・得意分野を活かして、拠点施設のイベントの講師として活躍してもらう。

など、利用者自らが考え、発信、行動していけるよう支援していきます。活動によって地域社会とつながり、親自身が一人の人として、人生を主体的に生きる。そして周りの親子や人間関係に対して前向きに
つながる力をつけられるよう取り組みます。

② 産前からの切れ目のない子育て支援

（ｉ）プレママ、プレパパ企画

・産前産後の母体の、心と体や環境の変化に戸惑わないように、夫婦揃って学びと仲間作りのワークショップや講座を行います。
・月に一回プレママ・プレパパの日を設定します。

（ii）親子の絆づくりプログラム「赤ちゃんが来た！」企画

２～５ヶ月の赤ちゃんとママを対象とした連続４回の講座を開催。赤ちゃんとの接し方など子育ての具体的な知識を学んだり、不安なことなどを出し合い、気軽に話し合える場とします。

③ 「子どもまつり」の開催。

きのくに子どもNPOの様々な活動に関わる人たちと一緒に、近隣地域に広く呼びかけ、施設前の駐車場で祭りを開催。ぐるんぱ利用者にも実行委員や出店を呼びかけます（年１回）

④ 信愛大学、信愛女子短期大学、和歌山大学、和歌山県立医科大学看護学部などの学生実習の受け入れ。また大学への「子ども子育て支援」に関する講座の講師派遣を行います。

・取組を実施することによる効果等について

① 利用者が主体となった活動と、親のエンパワーメントの支援

・支援拠点の利用者が次の支援者となる、支援のサイクルが生まれます

・地域の子育て支援力アップ

支援拠点で元気をつけたママパパたちが、支援拠点を卒業した後も職場で、地域で、社会的な活動や、幼稚園・学校等でその力を発揮して生き生きと輝ける、女性も男性も活躍する和歌山市に貢献できると考えます。

② 産前からの切れ目のない子育て支援

（ｉ）プレママ、プレパパ企画

産前からの切れ目のない支援は、厚労省でも重点課題と捉えている取り組みです。
産後うつや育児不安、虐待のリスクの軽減につながります。また産前から子育て支援　施設を知っておくことはプレママ・プレパパの安心感となり、何かあった時に相談にもつながりやすいと考えます。

（ii）親子の絆づくりプログラム「赤ちゃんが来た！」企画

ピア・レビュー（学び合い）ができる仲間ができたこと、子育ての具体的な知識を得たことによりママの育児不安を軽減させ、安定して子どもに関われる状況を作ります。

③ 「子どもまつり」の開催。

・地域交流の場の提供

・拠点施設（ぐるんぱ）に来ている保護者の活躍する機会の提供

地域の人に拠点施設を知ってもらい、理解者を増やすことが目的にしています。
この地域は、もともと子どもへの優しい声掛けが残っている地域ですが、これからも子どもの成長を温かく見守る地域として続いてほしいと思います。

④ 学生実習の受け入れ

これからの社会を担う若い世代が、子育ての現状、抱える課題を知ることで、

・保育士、看護師として現場に出たときの心構え、仕事への取り組み方によい影響を与える。

・自身が子育てを始めた時に安心できる居場所（支援拠点）があることを知る機会になる。現場で出会った親子に情報を教えることができる。

研修会や講座に出向き、子育て支援や子育て家庭の現状について話をすることで、地域の人に子育て支援の意義、安心して子育てできる地域づくりについて理解してもらい、「子育て応援団」を増やしていくことにつながると考えます。